

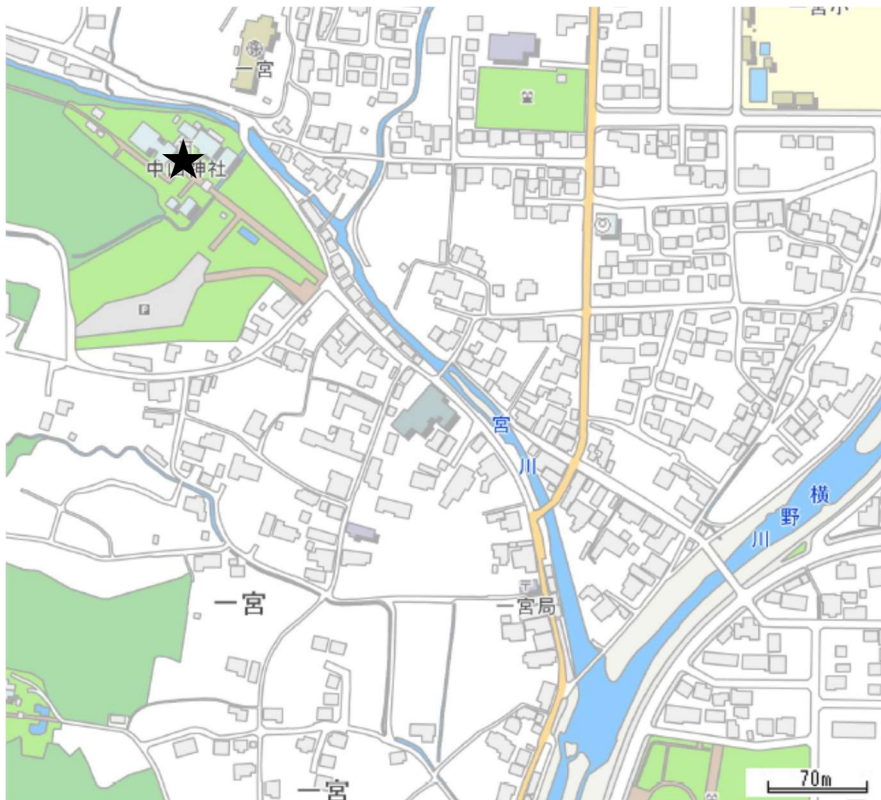
1 なかやまじんじやはいでん 中山神社拝殿、へいでん 幣殿

- (1) 所在地 津山市一宮
- (2) 所有者 宗教法人中山神社
- (3) 概要

中山造りとして知られる国重要文化財中山神社本殿の大正時代の修理にあわせて、大正11（1922）年に建築された拝殿と幣殿。入母屋造（いりもやづく）り檜皮葺（ひわだぶ）きで正面に唐破風向拝（からはふごはい）を付ける。設計は江川三郎八。特異なプロポーションの扱いや、吹寄垂木（ふきよせだるき）や内部格天井（ごうてんじょう）、舟肘木（ふなひじき）の使用等、随所に江川の作風が看取（かんしゅ）される。吹き寄せの船天井に江川作風をよく示す幣殿（へいでん）ともども国重要文化財の本殿に呼応した景観をつくる。

(4) 登録基準

- 二 造形の規範となっているもの



(写真)



中山神社拝殿外観



中山神社拝殿内部状況



中山神社幣殿外観側面



中山神社幣殿内面状況

【用語解説】

- 中山造（なかやまづく）り：入母屋造りで、妻入に向拝を設けて唐破風を付けたもの。中山神社のほか、総社本殿・鶴山八幡宮本殿（いずれも国の重要文化財）、高野神社本殿・徳守神社本殿（いずれも県指定重要文化財）等がある。
- 入母屋造（いりもやづく）り：寄棟造の屋根上部に切妻の小屋根を合わせたような形状の屋根の造り。
- 檜皮葺（ひわだぶ）き：檜（ひのき）の皮で葺いた屋根。
- 唐破風（からはふ）：中央部分を弓形に起こし、左右になだらかに流れる曲線を持った破風。
- 江川三郎八（えがわさぶろうはち）（1860-1939）：福島県会津若松出身で、福島県その後岡山県の建築技師。岡山県内では、旧遷喬小学校校舎（真庭市：国の重要文化財）や旧吹屋小学校校舎（高梁市：岡山県指定重要文化財）等の設計を行った。
- 破風（はふ）：2枚の板を山形に組んで構成した屋根の妻（建造物の側面）の部分。
- 向拝（ごはい）：「こうはい」とも読む。社寺の本殿や本堂の正面に設けた張り出し部分。
- 吹寄垂木（ふきよせだるき）：2本ずつを1組みとし、寄せ合わせて配する垂木（棟から軒に渡して屋根板等を受ける部材）。
- 格天井（ごうてんじょう）：縁の材を直行させて格子形に組んだ天井。
- 舟肘木（ふなひじき）：柱の頭に置いて桁を受ける形の舟形の肘木。

